

核心評論

100年前の女性デー

8日は国際女性デーだった。1909年に米国で女性らがデモをしたのを契機に広がった。約100年前のこの日、日本で先駆的に行動を起こした女性の姿を追うと、不当な扱いへの「異議申し立て」を隠せず続けることの大切さが伝わる。

23年3月8日、東京・神田で記念講演会があり、当時の新聞によると約500人が参加。評論家で、戦後に初代の労働者(当時)婦人少年局長を務めた山川菊栄らが講演予定だった。

しかし、国家主義的な団体に属する男性参加者が強烈なやじを浴びせて妨害。混乱の中、警察官が演壇に上がり「解散」と叫んで閉会させられた。女性にはA権もなかった時代。主張を鮮明にし、行動に移す女性たちへの逆風は強烈だった。

講演会の中心になったのは山川や、反戦運動などに取り組んだ堺利彦の娘である堺真柄

(03、83、後に近藤姓)らだ。法政大の大原社会問題研究所(東京)に真柄の手書き原稿など関係文書が収蔵されている。

「日本で最初に行われた国際婦人デーは大正十二年(一九二三年)の三月八日です」と記した原稿用紙がある。先駆者としての思い入れが感じられる。

生涯にわたりさまざまな活動をし、拘束や獄中生活も経験した真柄。人生を顧みて記した。「日本の社会運動史の中では、粟粒ほどのものであるのは当然である。粟粒は粟粒でいいのである。その一粒が他の芽をふく役にたつたかなと思いたい」

か細い湧き水が幾筋も集まり、流れ下ってやがて奔流になる。女性が性被害に抗議の声を上げ、国境を越えて展開した#B「運動も、名もない人たちの発信が出发点だったのだろう。分厚い壁があっても、諦めず

に声を上げ続けよう。1世紀前の女性たちの行動はわれわれにそんなメッセージを送っているように思える。

昨年6月に発表されたスイスのシンクタンク・世界経済フォーラムの男女格差(ジェンダーギャップ)報告で、日本は146カ国中125位。閣僚や企業管理職の女性比率の低さや男女間の収入格差などが響いた。国民、そして政界や経済界は深刻に受け止めねばならない。

今月2日、女性の政治参画がテーマの会合では、小さい子がいる女性が選挙に出ることの困難さや、有権者が投票や支援をちらつかせ街頭でしつこく手を握るなどの「票ハラスメント」について率直に語られた。

道はなお遠い。だがCを積み重ねること、社会が真摯に受け止め、現状を変えていくことしか前進はない。(共同通信編集委員・福島聡)

左の記事を読んで下の問いに答えましょう。

1 傍線部①「契機」④「奔流」の意味を次の中からそれぞれ選んで記号で答えましょう。

① ㊶最後 ㊵約束の始まり ㊷きっかけ ㊸お手本

④ ㊶中心になる流れ ㊵大きな流れ ㊷静かな流れ ㊸勢いの激しい流れ

①	④
---	---

2 傍線部②「先駆的」③「顧みて」の漢字の読み方をひらがなで書きましょう。

②	③ みて
---	---

3 空欄Aに入る言葉を漢字2字で書きましょう。

	権
--	---

4 空欄Bに入る運動を次の中から選び、記号で書きましょう。

㊶フェミニズム ㊵チャーチスト ㊷ウーマンリブ ㊸ミートウー

--

5 空欄Cに入る6文字の言葉を、本文中から抜き出して書きましょう。

--	--	--	--	--	--

NIEワークシートのこたえ（2024年3月13日公開）

◆ワークシート「100年前の女性デー(国語 社会 SDGs5)」

2024.3.10付 朝刊 発言 6ページ 解答

1 ① ㊦ ④ ㊧

2 ② せんくてき ③ かえりみて

3 選挙

4 ㊧

5 異議申し立て